

事務事業名	家庭教育学級及び家庭教育通信発行事業	担当	教育委員会 生涯学習課 生涯学習係
政策名	1 「人づくり」～豊かなこころアップ!～	施策名	5 青少年の健全育成
成果指標	名称	単位	4 年度実績
	家庭教育学級・思春期学級補助金額 家庭教育通信発行部数	千円 部	1,880 50,620
事業概要	<p>【家庭教育学級】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長に応じて、望ましい人格の形成を図るため、親として子育てに関する資質の向上を目的に開設した。 幼児や小学生を持つ保護者を対象とした学級を幼稚園12園、私立保育園6園、保育所4所、小学校14校全校に開設している。 中学生を持つ保護者を対象とした学級を中学校9校全校に思春期子育て講座（思春期学級）を実施している。 各学級の実施内容は、学級長（正副）運営委員（会計、書記等）等の役員と学級主事が、年間の事業計画を作成し、受講生を募集し事業を実施する。実施後報告書を作成。その他主催等の研修会への参加。 市の事務は、各学級からの補助金申請受付、審査、補助金決定通知、請求書受付、支払い（各5万円）、実績報告書受付、学級主事の委嘱、学級開設説明会等の実施。 合同家庭教育学級の実施内容は、家庭教育学級全体運営委員を、各家庭教育学級長の中から8名の学級長を選出し、家庭教育学級の全体的な運営や合同開講式について協議する。なお合同開講式時に学級活動紹介、作品展示等を実施する。 <p>【家庭教育通信】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児期における保護者などの考え方やしつけを内容とした「すこやか」（昭和53年度～）、小学校の時期における親の心構えやしつけなどを内容とした「のびる」（昭和48年度～）、中学生の個性を認めて親として適切な対応をとることを内容とした「めざめ」（平成3年～）がある。 3信とも「聞ける家庭教育」として幼稚園、保育園及び小中学校に就園、就学している保護者に発行している。 また、「すこやか・のびる・めざめ」及び各家庭教育学級の活動をまとめた「真岡市の家庭教育」を発行している。 編集委員については、「すこやか」6名（幼稚園、保育園関係者）、「のびる」6名（小学校関係者4名、自然教育センター指導主事1名、科学教育センター指導主事1名）である。「めざめ」については栃木県連合教育会へ依頼している。 		
4 年度実績・成果・課題	<p>【家庭教育学級】</p> <p>会議回数8回、家庭教育学級数36学級、思春期子育て講座回数8回 （思春期子育て講座については、市内中学校9校のうち1校が未実施であった。）</p> <p>令和4年度は、引き続き、学級主事の負担の軽減や新型コロナウイルス感染症対策に対応するため、開設基準等の一部緩和を継続した。具体的には、活動内容が、親子参加ではなく、やむを得ず子どものみの活動であっても、活動内容を書面等で保護者に伝えることで事業の効果を確保することにより、対象事業として認めるなど、状況に応じて柔軟に対応した。</p> <p>【家庭教育通信】</p> <p>会議回数5回（内すこやか5回）、発行回数15回</p> <p>家庭教育通信のびるについて、校長より業務負担等の要因から小学校教諭を編集委員として推薦することが難しくなる可能性があるという提言を受け、令和4年度は、3信分を放送大学へ原稿執筆を依頼し、実施した。また、新たにオンラインフォームを導入し、読者の声を集める取組を開始した。</p>		
今後の方向性と具体策	<p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）</p> <p>【具体的な改善案】</p> <p>【家庭教育学級】</p> <p>感染対策にも注意を払いながら、学級生の学習機会や成果の発表機会を確保できるよう、研修のオンライン化など、状況に応じて柔軟に対応する。</p> <p>【家庭教育通信】</p> <p>原稿執筆を外部機関へ委託する等、教諭の負担を軽くする試みについて、引き続き、調査研究を進めるとともに、従来と同様に現場での経験を生かした執筆機会の維持を図っていく。また、オンラインフォームを活用した読者の声を生かした事業の充実に取り組んでいく。</p>		